

竹川病院

検査科主任 臨床検査技師 齋藤 未来

功 績 常勤の前任者がいない中、検査科のマニュアル類や規程を一から作成し、6月の病院機能評価や7月の立入検査に対応。また、業務の効率化を推進し、検体検査のバーコード運用や心電図の個人情報を手入力から磁気読み取り方式に変更し件数を倍増（4月-6月 2024年269件→2025年502件）させました。1人職場でありながら業務改善と検査精度の向上、そして高い経営意識をもって当院検査科の枠組みを作った功績

推 薦 者 Ma-D 小柳 拓也

推 薦 理 由 昨年8月に当院へ入職し、検査科の整備に尽力、マニュアルや手順書を最新化し検査精度を向上させ、医師会精度管理調査では99点を獲得。業務の効率化により入力ミスを防止するとともに検査件数アップも実現しました。1人職場でありながら経営意識を高く持ち、積極的に業務改善を進め検査科の枠組みを作った功績

内 容

齋藤は総合病院、専門病院を経て昨年8月に当院に入職しました。それまで当院の検査科は正職員の技師が長く定着せず、1名の非常勤職員が検査を実施していた状況で、当時勤務していた非常勤職員も近く退職予定となっていました。そのような状況もあり、臨床検査科のマニュアルや規程は実態に合っていないものも多く、早急に改善の必要がありました。齋藤はまず、現状の業務内容とマニュアルを照らし合わせ最新のものに更新するとともに機器の使用手順書や測定標準作業書も作成し検査精度の向上にも取り組みました。そのような努力もあり、10月に行われた適時調査や先日の病院機能評価、そして7月3日に受検した立入検査でも大きな指摘事項なく終えることが出来ました。また、昨年受けた医師会の臨床検査精度管理調査では99点とし検査精度の向上にも大きく貢献していることが裏付けられました。

OurTeam経営に於いても自分がどのように貢献できるかを考え、それまですべて手入力で行っていた検体検査をバーコード化し入力ミスの防止（安全）と1件につき15分程度の時間短縮（経営）を実現、患者さんの待ち時間の短縮（親身な対応）にも繋がりました。心電図の受付も診察券の磁気読み取り式に変更し同様の効果をもたらしました（2024年4月-6月 269件 → 2025年4月-6月 502件）。また、実際に患者さんの検査をする際には、検査に使用する機器について丁寧に説明し、「これは痛くない検査ですよ」と必ず伝えてから実施することを心がけ安心して検査を受けていただけるように心がけているようです。

1人職場でありながらマニュアル類の整備、検査精度の向上、経営意識をもって業務改善をスピーディーにおこない検査科の枠組みを作った齋藤を理事長賞に推薦いたします。